

# きゃつとtimes

猫家の愉快な仲間たち

## 浦安三社例大祭

豊受神社神輿渡御

6月14日(金)宵宮

15日(土)富出し〜御輿渡御

16日(日)御輿渡御〜宮入り



2024年(令和6年)3月1日

発行・企画 / きゃつとタイムス編集委員会

# これが**必見** 浦安担ぎだ！

## 浦安独特の担ぎ方 地スリを完全マスター

浦安の独特の担ぎ方である「地スリ」。地面すれすれまで神輿を下ろして回ったり、頭上めいっぱいまで持ち上げたりする。元漁師町らしく、荒波や静かな波など海の動きを表現しているといい、浦安流の勇ましい見せ場となっている。担いだことがないと最初は難しいと感じるかもしれないが、基本的な動きを押さえておけば大丈夫。担ぎたい気持ちがあれば、誰でも歓迎！ただ、服装は最低限の祭り着で参加したい。股引き、鯉口シャツやダボシャツ、足袋は用意しておこう。

掛け声は  
マイダ！  
マイダ！

浦安流のもうひとつが「マイダ！マイダ！」の威勢の良い掛け声。「舞いだ」を意味していると伝わる。また「前だ」とする説もあり、「マエダ！マエダ！」の掛け声もある。



### 01 地すり

もまずに回せ！



神輿を地面すれすれまで下ろして中腰で支える。このとき、担ぎ棒と地面の間で手を潰してしまわないよう、上からつかむように持つ。この姿勢で「まわれ、まわれ、まわれ」の音頭で神輿を一回転させる。この際は、神輿は揺らさない。

ここで豊受神社の神輿では、「もみ」を行う。神輿を膝の位置まで持ち上げ、「もめ、もめ、もめ」の音頭で神輿を上下に豪快に揺さぶる。もみながらその場で一回転する。

### 02 腕を伸ばして高く差せ！ 差してから



神輿を頭上めいっぱい持ち上げ、神輿を一度静止する。再び「まわれ、まわれ、まわれ」の音頭で、高さを維持したまま一回転する。このときは神輿を揺らさない。

### 03 タイミングを合わせて空高く！ 放おる！



「差し」たあと、神輿を一度静止させる。音頭取りが「よい、よい、よい」と合図をしたら、担ぎ手たちは片手で「よい、よい、よい」と言いながら担ぎ棒を3回たたく。その後、神輿を頭上に3回放り上げる。

## ひと

Vol.2

## 司会・リポーター 後藤はるか

元町の人は熱くて、いつも直球



浦安市内で開催されるイベントの司会や、市の情報番組「こちら浦安情報局」のリポーターなどで活躍している。三社例大祭で初めて神輿を担いだのは2008年。宮神輿の大きさ、神社境内に集まった人々の熱気に驚いた。疲れているのに、興奮した心身が心地よくて眠れない感覚の3日間だった。「血が騒ぐってこういうことか！と。8年ぶりにあの感覚が味わえる」と待ちわびる。

3歳から劇団に所属し、舞台やテレビドラマで子役として活動し

た。生活の拠点は新浦安で、旧漁師町の元町地区との「出会い」は、知人の勧めで19歳の時に参加した「ミス浦安コンテスト」(主催・浦安商工会議所青年部)だ。特別賞を受賞し、入賞者4人でご当地アイドル「Miss-U」を結成した。イベント出演など地元での活動は、同級生らに見られる恥ずかしさもあった。その意識を変えたのが、浦安を盛り上げようという青年部メンバーの「本気」だ。その思いに応えたいと必死で取り組んだ。グループの活動期間は約1年間だったが、その後もイベントのアシスタントや司会に呼ばれるようになった。

それ以前は元町に行くことも

ほとんどなかった。古い街並みや、初めて聞く浦安弁が新鮮だった。ストレートな物言いで、飾りっ気のない人々の様子に「最初はちょっと怖かった」と笑う。だが、いつかそれが居心地の良さに変わっていた。

浦安での仕事を始めて20年近くになるが、それでも日々「新しい魅力を発見している」という。この浦安独特の良さを多くの人に伝えたいと思う。ただ、三社例大祭の3日間は別。「リポーターの仕事はしません。祭り好きの「浦安っ子」の一人として、神輿を担ぐことに専念するつもりだ。

取材執筆：泉澤多美子